

序

抗酸菌症は、環境や経済、社会の有り様を受けてめまぐるしく変化をしています。

現在、世界から結核中蔓延国という評価を受けている本邦は、地道な努力の結果、2020年東京オリンピック時に、人口十万人当たり新規登録患者数（罹患率）10を下回りそうですが、先進諸国がすでに悩んでいる「国際化による新たな結核」の問題がクローズアップされつつあります。2015年の本邦の20歳代の結核患者は、外国生まれの方が過半数となりました。また高齢者結核の問題は、国が推進する地域包括ケア構想のなかで十二分に対応できるのか、疑問があります。

非結核性抗酸菌症は、患者数が非常に増加しており、基礎医学、臨床医学両面でまだ多くの問題が未解決です。患者さんは早期診断、早期治療に大きな期待をおもちですが、それに十分こたえられる「武器」を、医療側はまだ手に入れてはいません。悩み多き疾患です。病病連携、病診連携を考えていく必要があります。

本書を編集した目的は、診察室の傍らに何気なくあり、診療の合間に開いて調べていただける簡易なテキストをつくることです。毎日患者さんを診療している臨床の医師の方々に、できるだけご自身の言葉で書いていただくという無理をお願いしました。筆者の方々に、この場をお借りして深謝いたします。

最後に、本書の発刊にあたり特定非営利活動法人 非結核性抗酸菌症研究コンソーシアム（NTM-JRC、理事長 倉島篤行）の全面的な後援を受けています。NTM-JRCは、非結核性抗酸菌症を研究し患者さんに応えていこうという目的をもった団体で、2015年に設立されました。今後も活動を強化しさまざまな啓発も行っていきたいと考えております。

これからも抗酸菌は人間の生活にかかわり、その変貌に合わせて変化を続けていくことでしょう。本書が、抗酸菌医療の入門書として診療の一助になることを、願ってやみません。

2017年2月

佐々木結花

[編集協力]



特定非営利活動法人
非結核性抗酸菌症研究コンソーシアム

特定非営利活動法人非結核性抗酸菌症研究コンソーシアム（NTM-JRC）は未解決の臨床的課題が多い非結核性抗酸菌症に対する研究を多施設で協力し合って実施するとともに、最新の非結核性抗酸菌症に関する知見の医療従事者等への普及活動や、社会への非結核性抗酸菌症に関する啓発活動を通して日本および世界の非結核性抗酸菌症診療の発展に寄与することを目的としている。

理事長 倉島篤行（公益財団法人結核予防会 複十字病院 臨床研究アドバイザー）

問合せ先 ntmjrc@gmail.com